

小学校家庭教育学級合同開級式・家庭教育講演会報告

5月28日(金)、小学校家庭教育学級合同開級式および家庭教育講演会を市民劇場およびオンラインで実施いたしました。コロナ禍の中、ご参加いただき感謝申し上げます。内容は以下の通りです。

1 小学校合同開級式

(1) 日程 令和3年5月28日(金) 10:00～

(2) 内容 ○主催者挨拶 松戸市教育委員会 伊藤 純一 教育長
○来賓挨拶 松戸市校長会 西郡 泰樹 会長

(3) 参加者 ○劇場 41名
○オンライン参加 21名



(4) 概要

教育長は、コロナ禍において、学校教育や子育てはどうあるべきか考えていたとのこと。また、みんなが集まって思いを共有することや人と人が関わって物事を進めていくことの大切を感じていたとのこと。コロナ禍において保護者の皆様が家庭教育学級の大切さを感じている今こそ、各学校のリーダーを中心に家庭教育学級の活性化に向けて頑張ってもらいたいというお話がありました。

校長会長からは、教師の学級経営や自分の身内のことを例にあげ、子育ての難しさや子育ての結果は長い目で見なければ分からないことをお話しいただきました。

家庭教育学級にたくさんの学級生が集まり、子育ての成功や失敗を共有し、それを今後の子育てに生かすことはとても大切なことだと改めて感じました。



2 家庭教育講演会

(1) 演題 ヒトとゴリラとICT化 ―教育はみんなで―

(2) 講師 松戸市教育委員会 伊藤 純一 教育長

(3) 内容

○地球の誕生、ゴリラの誕生、現生人類の誕生

- ・地球誕生46億年前、ゴリラの誕生1000万年前、現生人類の誕生20万年前

○ゴリラのオス・メス

- ・3年間におよぶメスによる授乳期間とそれ以後のオスによる子育て

○ボノボの子育て

- ・ボノボ(ピグミーチンパンジー)にある利他行為(他人を意識し、思いやりのある行為)の存在

○ヒトの子育て

- ・安全な環境の中で育つヒトの赤ちゃんは泣く
- ・ゴリラの脳の大きさ400CC、いろいろな人とコミュニケーションをとる人の脳の大きさ1450CC

○社会の方向性

- ・便利な社会を築かなければならないという社会の方向性、人と共存していく社会と個人で生きることができる社会との矛盾

○ヒトの持つ能力

- ・共同の育児、食の公開と共食、対面コミュニケーション、ことばを用いた会話などによる共感能力、社会性、互酬性の発達

○子育て・教育

- ・子育て、教育はみんなで



地球の誕生からはじまり、ゴリラの子育て、人間の子育てという流れで話が進んでいきました。ICT化により便利な社会になってきているが、人間同士の関係が希薄になってきているということに対する危機感を感じました。アフリカの「子ども一人が育つには一つの村が必要だ」ということわざのように、「子どもはいろいろな人と関わって育っていくものであり、一人で育てるものではない。また、一つの家庭だけで育てるものではない。みんなで手をつないで子どもを見ていこう」という教育長の考えに賛同する方が多いことをアンケートから感じる事ができました。